



HOKKAIDO! ECO

地球の“いま”と向き合い、“いま”に気付いて、“いま”から思いやりのある行動を

地球にやさしい・エコプロジェクト



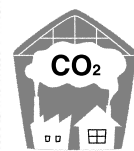
Green Heart
HOKKAIDO
2008 HOKKAIDO TOYAKO SUMMIT

【地球温暖化】(ちきゅうおんだんか)

地球は、太陽のエネルギーで温められ、温められた熱の一部が宇宙に放出されます。大気中のCO₂やメタンなどは「温室効果ガス」と呼ばれ、太陽からの熱を宇宙へ逃さない働きをしています。もし温室効果ガスがなければ、地球の気温は低くなり過ぎてわたしたちは暮らしていけません。逆に温室効果ガスが大量に増えると、熱が宇宙に放出されにくくなり、地球がどんどん暑くなります。これが地球温暖化です。



【温室効果ガス】(おんしつこうがす)



太陽からの熱を地球に封じ込め、地表を温める働きがある気体のこと。地球温暖化を防ぐ条約(京都議定書)では、CO₂、メタン、一酸化二窒素のほか、HFC類、PFC類、SF6が削減対象の温室効果ガスと定められています。

【オゾン層】(おぞんそう)

地上10～50km上空にあるオゾンの層で、太陽の光に含まれている有害な紫外線の大部分を吸収して、地球の生きものを守ってくれています。人間が作り出したフロンの影響で、オゾン層が破壊される問題が起きています。



【酸性雨】(さんせいう)



自動車の排ガスや工場から出る煙に含まれる汚染物質が、雨雲にとりこまれて酸性になった雨のこと。木を枯らしたり、文化財の大理石を溶かすなどの被害をもたらします。

【ヒートアイランド現象】

(ひーとあいらんどげんしょう)

都会の中心部が周りの地域より極端に熱くなることです。太陽の熱でビルのコンクリートや道路のアスファルトがとても熱くなるほか、冷暖房や自動車からたくさん熱が出るため起こる現象です。

【IPCC】(あいびーしー)

地球温暖化について科学的な評価を行うために、1988年に誕生しました。130カ国・4,000人以上の科学者が参加し、ほぼ5年ごとに評価報告書を発表しています。温暖化の科学的研究で最も権威のある組織とされ、2007年にはノーベル平和賞を受賞しています。



いよいよ7月7日、環境サミットといわれる北海道洞爺湖サミットが開かれます。新聞やテレビで、環境にまつわるさまざまなニュースが報じられていますが、知らない単語が出てきて、スッキリ理解できないということはありませんか？そこで、サミット前に覚えておきたい環境用語をご紹介します。ぜひ、お役立てください。

地球環境ノート

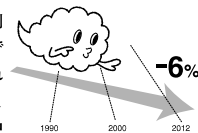
VOL. 11

サミット前に 知っておきたい 環境用語編

【保存版】

【京都議定書】(きょうとぎていしょ)

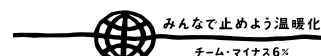
先進国の温室効果ガス削減目標を定めた国際条約です。1997年に京都で開かれた国際会議で決まったため、こう呼ばれています。この中で日本は、2008年から12年までに、温室効果ガスの排出量を、1990年と比べて6%減らすことを約束しています。



【チーム・マイナス6%】

(ちーむ・まいなすろくばーせんと)

京都議定書で日本が約束した温室効果ガス削減目標「6%」を達成するための国民運動。暮らしの中で1人1日1kg CO₂を減らす方法も提案されています。あなたも参加してみませんか。 <http://www.team-6.jp/>



【ウォームビズ／クールビズ】

(うぉーむびず／くーるびず)

環境省が呼び掛けている、地球温暖化防止に向けた取り組みです。ウォームビズは、暖房20℃でも暖かく働けるビジネススタイル、クールビズは、冷房28℃でも涼しく働けるビジネススタイルのことです。

WARMBIZ COOLBIZ

【エコドライブ】(えこどらいぶ)

環境に優しい運転のこと。アクセルを優しく踏む、アイドリングを控えるなどの心掛けで、ガソリンの消費量が減り、CO₂を削減できます。



【エコマーク】(えこまーく)

環境に優しい商品であることを伝える目印です。(財)日本環境協会が審査し、認定された商品に付けられています。



【グリーン購入】(ぐりーんこうにゅう)

ecoで〜す!



商品やサービスを選ぶとき、価格や品質だけでなく、環境への影響が小さいものを優先することです。

【3R】(さんあーる)

今までごみとして捨てていたものを、大切な資源として使っていくための活動のこと。

- ①Reduce／リデュース(ごみを減らす)
- ②Reuse／リユース(繰り返し使う)
- ③Recycle／リサイクル(再生利用)

の頭文字をとって、こう呼ばれています。



【フードマイレージ】(ふーどまいれーじ)

食物の原料(食材)が運ばれてくる距離のこと。産地から食卓までの距離が長いほど輸送にかかる燃料やCO₂の排出量が多いため、フードマイレージの高い国は、環境にダメージを与えていると言えます。食料の多くを外国から輸入している日本も、その一つとなっています。



【化石燃料】(かせきねんりょう)



石油、石炭、天然ガスなど、過去の生物の活動でつくられた燃料。限りがあることに加え、燃やすと発生するCO₂が地球温暖化の原因になることから、化石燃料に頼らない社会の実現が急がれています。

【再生可能エネルギー】

(さいせいかのうえねるぎー)

使うとなくなってしまう石油や石炭、ウランと違い、自然の中で繰り返し起こる現象から取り出すエネルギーのこと。太陽光、風力、地熱のほか、ダムなどの建設を伴わない水力発電、バイオマスなども含まれます。



【バイオマスエネルギー】

(ばいおますえねるぎー)

木材や生ごみ、動物のふんなどからつくるエネルギーのこと。燃やすとCO₂が出ますが、植物などの成長の途中でCO₂を吸収するため、CO₂が増えないと見なされています。



【コージェネレーション】

(こーじえねれーしょん)

発電で生み出される電気だけでなく、排熱も利用して、暖房や給湯などを行うことをいいます。エネルギーの節約とCO₂削減につながることから、工場やオフィスビル、家庭へと広がっています。

【グリーン電力】

(ぐりーんでんりょく)

風力、太陽光、バイオマスなど、再生可能なエネルギーからつくられた電気のことです。

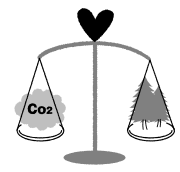


【待機電力】(たいきでんりょく)

電気製品で、使用していないときでも、液晶表示や内蔵時計などのために、消費されている電気のこと。リモコンではなく主電源でオフにしたり、コンセントからプラグを抜くことで、かなり解消できます。

【カーボンオフセット】(カーぼんおふせつと)

努力しても減らせないCO₂の排出を、植林や自然エネルギーの利用などで埋め合わせするというものです。イギリスなどヨーロッパでの取り組みが活発で、日本でも始まりつつあります。



【低炭素社会】(ていたんそしゃかい)



CO₂などの温室効果ガスの排出を、自然が吸収できる量にとどめる社会を目指すもの。そのためには、CO₂の排出を最小限に抑えること、もったいないの心で生活の質を高めること、CO₂の吸収源・森林を育てるなどの取り組みが必要とされています。

【ポスト京都】(ぽすときょうと)

京都議定書の第一約束期間(2008～12年)の後に来る、13年以降の温室効果ガス削減の枠組み。日本は、世界のCO₂排出量を、現状から半分にすることを提案しています。温暖化防止がテーマの北海道洞爺湖サミットでは、この提案をもとに話し合いが行われます。

2013
2014
2015
2016
2017
2018
2019
2020